

新潟県よろず支援拠点 生産性向上支援センターについて

補助金活用を、実際の「省力化」と働きやすさにつなげる

現場改善

業務整理

省力化投資

説明35分 + 質疑応答5分

無料 × 現場訪問 × 複数回伴走

2026年8月28日

新潟県よろず支援拠点 生産性向上支援センター 統括サポーター 鈴木俊雄

1

本日本日お伝えすること

～補助金活用の前後で、センターがどう役立つか

補助金制度の説明ではなく、
「設備投資を成果につなげる考え方」を整理します。

- 1 設備ありきにしない**
どの業務に時間がかかり、どこにムダがあるかを先に整理
- 2 センターの使い方を知る**
無料・現場訪問・複数回で、現場改善から省力化投資まで伴走
- 3 事例からイメージする**
工程の見える化、2S、レイアウト改善、ICTの進め方を確認

本日のゴール：

補助金や設備投資を効果につなげるために、まず自社の課題整理と改善の進め方を理解する

省力化投資補助金（一般型）でセンター利用加点を受けるには

～ まず押さえてほしいポイント



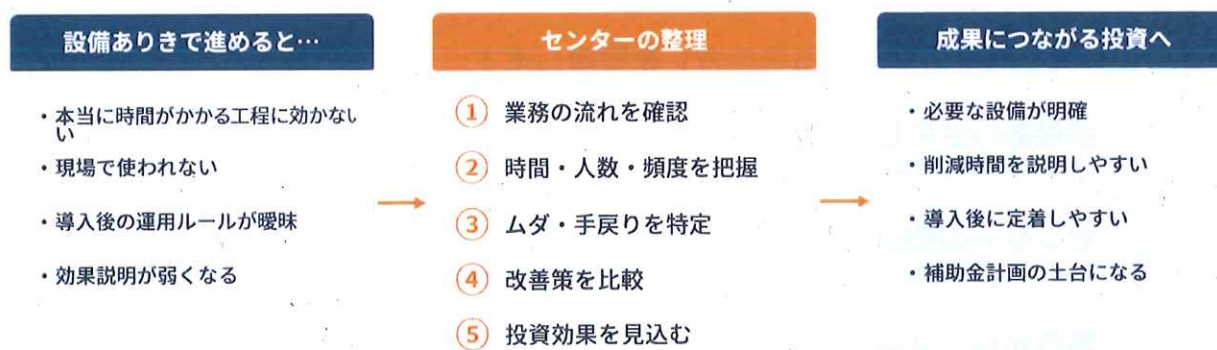
※実際の加点要件は最新の公募要領をご確認ください。

新潟県よろす支援拠点 / 生産性向上支援センター

3

良い設備を入れれば、必ず生産性が上がるわけではありません

～ 投資前に『業務そのもの』を整理する



**「設備を買うための相談」ではなく、
「何を改善すべきを整理する相談」から始められます。**

新潟県よろす支援拠点 / 生産性向上支援センター

4

なぜ今、生産性向上なのか

～ 人手不足時代に生産性向上は不可欠

直面する 3 つの課題

1 人手不足の深刻化

生産年齢人口の減少で、募集しても応募が集まらない・定着しない

2 賃上げ圧力の高まり

原価・人件費の上昇を価格に反映しきれず、収益確保が難しい

3 設備老朽化・デジタル化の遅れ

設備更新や業務のデジタル化が進まず、手作業・二重入力・手戻りが常態化

だから「今の現場を強くする」

採用頼みでは限界

× 応募が集まらない

× 採用しても定着しない

△ 採用コスト増大

現場改善×省力化

✓ ムダ・ムラの削減

✓ 業務の標準化

✓ 省力化投資・DX推進

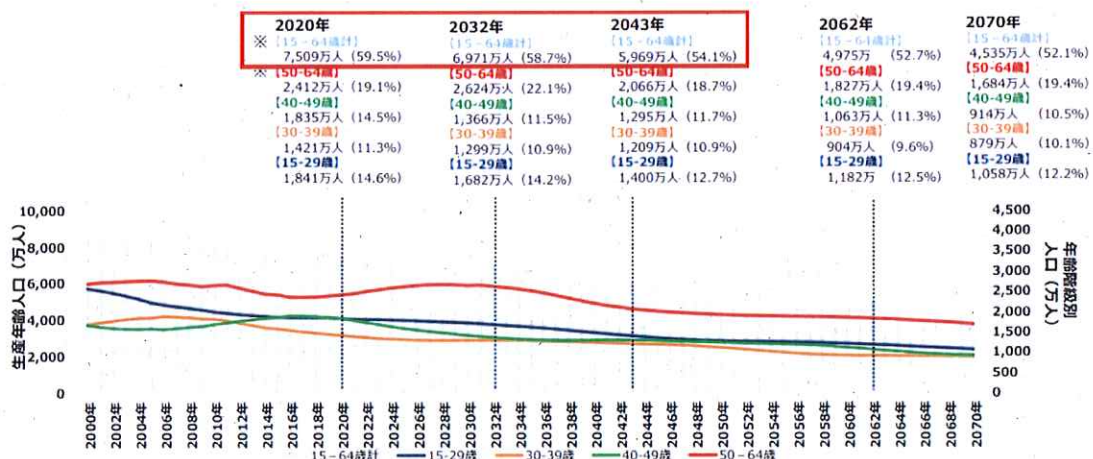
現実的な第一歩は「現場改善」から始まる

新潟県よろず支援拠点 / 生産性向上支援センター

5

参考：人手不足に関するデータ

～ 中長期的には、生産年齢人口は減少の可能性



出典：令和 6 年 3 月 26 日 内閣官房 新しい資本主義実現会議「資料 1 基礎資料」を基に中小企業庁が作成

新潟県よろず支援拠点 / 生産性向上支援センター

5

～ 首都圏への人口流出が、地方の人手不足に



7

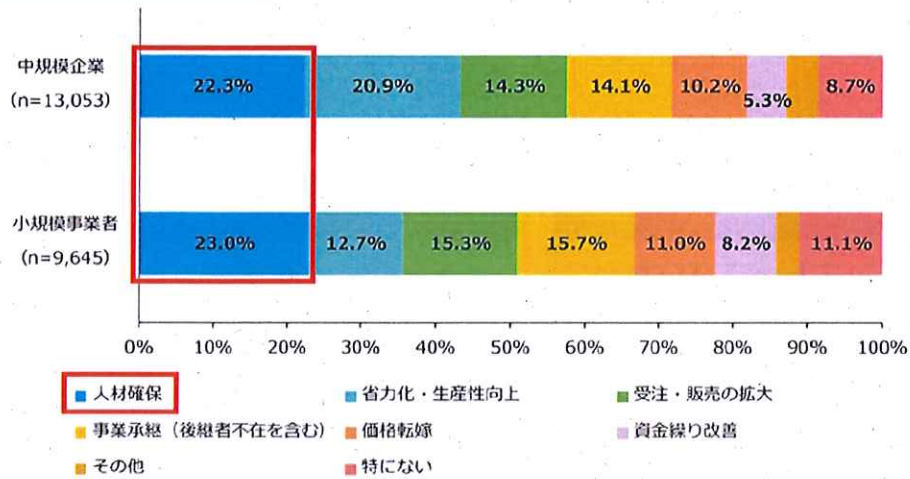
～従業員の規模が小さい企業ほど、人材採用の難易度は高い



3

参考：人手不足に関するデータ

～「人手不足」が経営者にとって大きな課題に



出典：中小企業庁「中小企業白書2025」を基に作成

新潟県よろず支援拠点 / 生産性向上支援センター

9

参考：人手不足に関するデータ

～ 中小企業の人手不足への対応は採用活動が中心にとどまっている

人手不足への対策としては採用活動の強化が最多となっており、「事業のスリム化、無駄の排除」や「デジタル・機械・ロボットの活用」などに取り組む余地は大きい。



出典：日本商工会議所・東京商工会議所「「人手不足等への対応に関する調査」結果概要」（2024年9月）を基に中小企業庁が作成

新潟県よろず支援拠点 / 生産性向上支援センター

10

新潟県よろず支援拠点について

～ 付加価値労働生産性を両面から高める

$$\text{付加価値労働生産性} = \text{付加価値額 (分子 ↑)} \div \text{労働投入量 (分母 ↓)}$$

【分子 = 付加価値 を拡大】

よろず支援拠点ワンストップ窓口が対応

- ① **個別相談**
経営全般の相談に専門家が個別対応
(売上拡大／販路開拓／資金繰り 等)
- ② **伴走支援**
決算書等をもとに複数回で支援し
付加価値・稼ぐ力を拡大

【分母 = 労働投入 を削減・最適化】

生産性向上支援センターが対応

- ③ **現場訪問型の伴走支援（新設）**
ムダ削減・標準化・DX・省力化投資
現場に入り、今いる人材の生産性を最大化。
ツール・設備の「入れ方」ではなく
「業務そのもの」から改善を進めます。

新潟県よろず支援拠点 / 生産性向上支援センター

11

生産性向上支援センターとは

～ 業務整理 → 課題の見える化 → 改善計画 → 実行・定着 まで伴走

生産性向上支援センターとは

生産性向上に関する知識・経験豊富な専門家（サポーター）が、事業者さまの現場に直接お伺いし、課題整理から実行・定着まで **継続的に伴走支援**する、国による公的支援の仕組みです。

単なるツール・設備の案内ではなく、
“業務整理 → 課題の見える化 → 改善計画 → 実行・定着 まで”
伴走支援します。

現場訪問型

「相談に行く時間がない」事業者
にも専門家が現場に直接お伺いし
ます

複数回 伴走

複数回の訪問で、計画から実行・
定着までじっくり支援
(回数に限度はないが最初は5～
10回で設定)

無料

公的支援事業のため、費用は一切
かかりません

**補助金のためだけでなく、
『現場が回る・自走できる』状態を目指す支援です。**

新潟県よろず支援拠点 / 生産性向上支援センター

12

センターが提供する 5 つの価値

～ 助言だけでなく「改善が進む状態」を提供

メリット 1	メリット 2	メリット 3	メリット 4	メリット 5
 課題の見える化 現状と理想の差分を、優先順位付きで整理	 生産性向上 省力化・省人化で労働投入を最適化	 人材育成 リーダー層の改善力・自走力を強化	 設備投資の具体化 現場に合ったツール・設備方向性を整理	 補助金の加算対象 省力化投資補助金など活用の土台づくり

ツール導入が目的ではなく、「現場に合う改善」「自走できる仕組み」が目的です

新潟県よろず支援拠点 / 生産性向上支援センター

13

具体的な支援テーマ

～ 現場からバックオフィス、DXまで幅広く対応

	課題のありか	目的	方法・支援内容
先進・高度	⑤ 自動化・IoT	- 画期的な省人化・省力化 - 工法・加工技術の開発改良 - リアルタイム管理	- AI/ロボット/センサー/カメラなどメカトロ技術を活用システムインテグレーション - 情報ネットワーク技術によりリアルタイム化とアクション
	④ スタッ業務改革・DX	受発注・生産管理・設計開発事務・技術・計画業務効率化とリードタイム短縮	- アナログな作業をデジタル化 (DX) 一気通貫・一括処理 - POS、RPA、クラウドなどITの活用 - CAD/CAMなどデジタルエンジニアリング技術の活用
ムリ・ムダ・ムラ	③ プロセス改革	- コスト原単位に基づいた改革 - 工程短縮・共通化、在庫低減 - レイアウト・物流・動線改革	- ヒト・モノ・情報の流れを把握&分析、減らす/止める/共通化 - 作業手順、工数、在庫量、仕掛かりタイミングを明らかにし シンプル・スリム・スピーディ・フレキシブルに
	② 改善職場づくり	作業者の声をもとに自発的に改善の進む職場文化・風土	- ムリ・ムダ・ムラ、やりにくい作業、守りにくいルールへの改善 - 全員参加・現地現物・チームワーク・改善マインドの醸成
	① 作業環境の整備	- 安全・安心・健康な作業環境 - 正常・異常がすぐわかる - ムリ・ムダ・ムラを目立たせる	5S(3S)必要な物は近く、分かるように、不要物は整理 - 災害・疾病リスクアセスメントで、より良い作業環境作り

！ 企業の強み・弱み、課題のありかと重要度を明らかにし、企業一丸で取り組むことがとても有効です。

新潟県よろず支援拠点 / 生産性向上支援センター

14

支援の進め方

～ 申込から実行・定着まで、5～10回程度で段階的に進めます



単発相談ではなく、実行と定着まで見据えた「伴走」支援を行います

※支援回数や進め方は、事業者の状況に応じて調整します。

新潟県よろす支援拠点 / 生産性向上支援センター

15

役割分担：代行ではなく「社内に力が残る」伴走

～ 事業者さまの主体的な取り組みが不可欠



支援が終わっても改善が続く状態作りを目指します

新潟県よろす支援拠点 / 生産性向上支援センター

16

センターの活用に向いている事業者

～人手不足・価格転嫁の難しさに対し、仕事の進め方を見直したい事業者～

生産性向上支援センターに向いているのは、
現場・業務・プロセスを見直し、労働投入を最適化したい事業者です。

センターに向いている事業者の共通点

1 人手不足 今いる人材で 回る仕組みが必要	2 価格転嫁の難しさ 利益を残しづらい 体質になっている	3 ムダ削減 現場や事務のムダを 減らしたい
4 属人化 特定の人しか 分からない仕事	5 紙・Excel アナログ業務を 見直したい	6 投資前整理 DX・設備投資前に まず整理したい

新潟県よろず支援拠点 / 生産性向上支援センター

17

事例1：有限会社 新生建設

(福岡県久留米市・土木事業) 出典：「福岡県生産性向上支援事例集」支援事例50

～ICT一貫システム導入による土木工事の効率化



課題

- ✓ 人手不足・長時間労働
- ✓ 測量・施工管理・書類作成に工数
- ✓ ICT化したいが、どこから着手すべきか不明

支援ポイント

- ✓ 工程を分解し、時間・人数・設備を見える化
- ✓ 課題工程を特定し、ICT化の導入を整理
- ✓ 導入後の削減時間を算定



効果・成果

工事1件あたり

約**304時間**削減見込み

年間4件で

約**1,216時間**削減見込み

- ✓ 測量 16時間 → 8時間
- ✓ 施工・検測 256時間 → 88時間
- ✓ 事務作業の省力化・ミス削減

現状分析 → 必要設備の明確化 → 効果算定 の好事例

新潟県よろず支援拠点 / 生産性向上支援センター

18

事例2：株式会社ゼロプラス（福岡県遠賀郡戸屋町 食品製造・無店舗小売業） 出典：「福岡県生産性向上支援事例集5」支援事例154

～ 2S・レイアウト改善＋設備導入



課題

- 自社商品の製造が手作業中心
- 注文増加に生産が追いつかない
- 作業スペースが狭く、品質ばらつきも発生

支援ポイント

- ✓ 2S（整理・整頓）
- ✓ レイアウト・動線改善
- ✓ 自動化設備導入
- ✓ 作業手順作成・教育

効果・成果

作業時間を大幅に削減

1日 8時間以上削減

- ✓ 生産量向上
- ✓ 品質安定
- ✓ 属人化解消
- ✓ 誰でも作業できる工程へ

設備導入前に『設備が生きる現場』を作った好事例

福岡県よろず支援拠点 / 生産性向上支援センター

19

まとめ：補助金を活かすために、まず自社の課題から

本日のポイント

加算要件

- 1 相談だけでなく、生産性向上取組計画書の作成・提出が必要

計画書の前提

- 2 現場・業務の流れを整理し、課題と改善の優先順位が見える化する

投資判断

- 3 課題整理と改善方法の検討後に、設備・DXを考えると効果が高い

センターの役割

- 4 課題整理から改善・定着まで伴走できる

省力化投資を成果につなげる流れ

現状把握

課題整理

改善検討

設備・DX

効果確認

まずは、自社の「どこに時間がかかっているか」「何を改善すべきか」を整理することが第一歩です

必要に応じて、生産性向上支援センターを「整理・実行の伴走役」としてご活用ください。

福岡県よろず支援拠点 / 生産性向上支援センター

20

ご相談方法・お申し込み

～ 対面 ・ オンライン ・ 現場訪問 ～ 状況に応じてご利用いただけます

現場訪問

サポーターが事業者の
現場に直接伺います
(センター中心)

来訪相談

万代島ビル10F /
長岡NICOテクノプラザ /
上越ものづくり振興センター

オンライン

Teams 等を活用した
個別相談

電話・メール

電話・メールを活用した
個別相談
(短時間相談)

お申込フォーム ご記載時のお願い

◆ 課題の優先順位

最重要課題を1～3つに絞ってご記入ください。

◆ 具体的なご相談内容

「何から始めれば良いか、分からない」でもOKです。
状況・背景をそのまま書いていただければ十分です。

困ったら・・・、いえ、

「困る前に、よろず支援拠点」へ

売上アップ・経営改善・法律・補助金・
人手不足・現場改善・省力化・DX…

経営のお悩みは、ぜひ よろず支援拠点 へ。

現場改善・生産性向上のご相談は、

生産性向上支援センター が伴走します。

お問い合わせ

新潟県よろず支援拠点 / 生産性向上支援センター

TEL : 025-246-0058 / 受付 : 平日 9:00～17:00

URL : <https://www.niigata-yorozu.go.jp>



お申し込みはこちら

